

感染症の予防のための情報提供について

【日本脳炎にご注意ください】

日本脳炎ウイルスは豚の体内で増殖し、蚊（コガタアカイエカ）を媒介して人に感染します。（日本脳炎ウイルスは人から人へは感染しません。）

三重県では、日本脳炎ウイルスの活動状況を把握するため、毎年初夏から初秋にかけて豚の抗体検査を実施しています。（厚生労働省協力事業）

今回、調査した豚の抗体保有率が注意報レベル※を超えたため、感染予防等のため注意喚起いたします。

蚊にさされないように気をつけましょう。特に屋外や豚の多い場所や水田、沼地の周辺（コガタアカイエカが発生する場所）は注意してください。

※調査した豚の日本脳炎に対するH I抗体陽性率が50%を超え、かつ2-ME感受性抗体（IgM抗体）を検出。

- ・ H I抗体陽性：過去も含め、日本脳炎ウイルスに感染したことを示す指標。
- ・ 2-ME感受性抗体陽性：最近、日本脳炎ウイルスに感染したことを示す指標。

【今年度の検査結果】

	採血日	検査頭数	H I抗体陽性頭数	2-ME感受性抗体陽性頭数
1	7月16日	10	1	1
2	7月23日	10	5	2
3	7月30日	10	5	1
4	8月6日	10	4	2
5	8月13日	10	4	—
6	8月20日	10	4	—
7	8月27日	10	7	1

（過去の注意喚起歴）

令和元年（9月26日）平成29年（9月8日）、平成27年（7月31日）、平成21年（8月24日）
平成20年（7月16日）、平成19年（9月5日）、平成18年（9月6日）、平成17年（8月5日）

【日本脳炎の症状】

感染しても症状が現れずに経過する 경우가ほとんどですが、およそ100人から1,000人に1人程度発病する場合があります。発症した場合20から40%が死亡に至るといわれています。症状が出る場合、6～16日間の潜伏期間後、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などが現れ、引き続き、光への過敏症、意識障害、けいれんなどの中枢神経障害を生じます。

【予防接種】

日本脳炎は予防接種により罹患（りかん）リスクを75%から95%減らすことができると言われており、予防接種法に基づく定期接種の対象となっています。

○第1期（3回）

初回接種（2回）：生後6月から生後90月に至るまでの間にある者

追加接種（1回）：初回接種終了後6月以上、標準的にはおおむね1年を経過した時期

○第2期（1回）：9歳以上13歳未満の者

【県民の皆さまへ】

1. 蚊に刺されないようにしましょう。
 - ・ 戸外へ出るときは、できる限り長袖、長ズボンを身に着けましょう。
 - ・ 露出している皮膚には、虫除けスプレーなどを使いましょう。
 - ・ 網戸を使用しましょう。(コガタアカイエカは「夜間吸血性」です。)
2. 蚊の発生を防ぐために、水たまり等をなくしましょう。
3. 日本脳炎の定期接種を受けましょう。
4. 過労をさけ、十分な睡眠と栄養をとりましょう。

【三重県・全国】における日本脳炎患者発生状況（令和2年8月23日時点）

年	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
三重県	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
全国	9	2	9	2	2	11	0	0	8	2

※日本脳炎を含め、感染症に関する各種情報を三重県感染症情報センターのホームページで提供していますので、ご覧ください。 <http://www.kenkou.pref.mie.jp/>